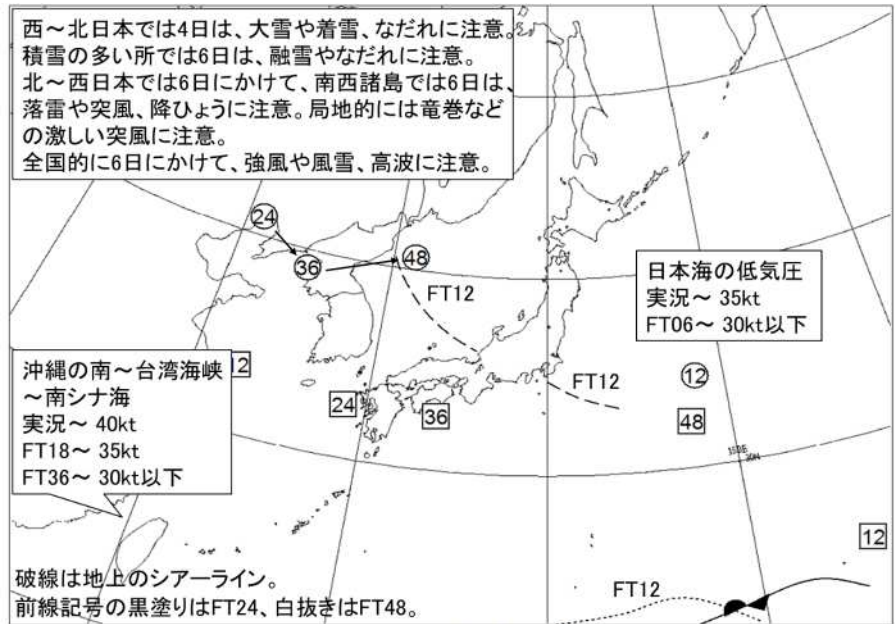


1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は西高東低の冬型の気圧配置となっている。西～北日本では3時間に5～10cmの降雪を観測している所がある。
- ② 500hPa5280～5400mの-30℃以下の寒気を伴うトラフが東～北日本を通過中。
- ③ 日本海に地上のシアーラインがのび、北陸地方を指向している。また、関東の東にも地上のシアーラインがのびている。シアーライン周辺では雷を検知し、1時間に10mm前後の降水を解析。
- ④ 冬型の気圧配置の影響で、



主要じょう乱解説図

気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②のトラフは4日朝には日本の東へ抜ける。850hPa-9℃以下の寒気が東日本まで南下し、西～北日本では山沿いを中心に降雪が強まり、大雪となる所がある。西～北日本では4日は大雪や着雪、なだれに注意。また、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北日本では4日は、落雷や突風に注意。なお、4日午後は高気圧が東シナ海へ進み、日本付近の冬型の気圧配置は次第に緩む。
- ② 1項③のシアーラインは、4日午前中にかけて、日本海～北陸地方付近、伊豆諸島付近～日本の東にのびる。シアーライン周辺では、上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。西～東日本では4日は、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。なお、これらのシアーラインは、冬型の気圧配置が緩む4日午後には不明瞭になる。
- ③ 4日夜までに低気圧がボツ海付近で発生し、5日は黄海から日本海へ、6日は前線を伴って発達しながら北日本を通過しオホーツク海へ進む。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。西～北日本では5～6日は、南西諸島では6日は、落雷や突風、降ひょうに注意。850hPa0℃線が東北地方まで北上するため、積雪の多い所では6日は、融雪やなだれに注意。
- ④ 冬型の気圧配置や2項③の低気圧の影響で、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。全国的に6日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量 (06時から24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。

② 降雪量 (06時から24時間) : 北海道40、東北30、北陸25、近畿15、関東甲信10cm。

③ 波浪 (明日まで) : 伊豆諸島・沖縄4、北海道・関東・東海・北陸・近畿・中国・奄美3m。

④ 高潮 (明日まで) : 大潮の時期。東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。